

新小樽（仮称）駅における取組報告



小樽市 建設部
新幹線・まちづくり推進室

1 おたる新幹線まちづくりアクションプラン

「北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画」(2017.3 小樽市策定)に基づき、官民一体となって新幹線の開業効果を最大限に活用した魅力あるまちづくりを行うための行動計画。

➡ 2021.3 北海道新幹線活用小樽まちづくり協議会(官民連携組織)策定。



計画期間

- 2021年度から2030年度(新幹線開業までの10年間)
- 開業後の取組に繋げるため、その見通しも示す



2つのテーマと基本方針

2次交通対策

- ① 利便性の高い2次交通網の構築
- ② 実効性を高める基盤づくり
- ③ 公共交通の利用促進と充実の好循環

ソフト対策

- ① 新幹線開業を契機とした個人観光客の誘致拡大
- ② 新幹線開業を地域の活力に繋げる取組
- ③ 新駅周辺の魅力づくり
- ④ 開業気運の醸成

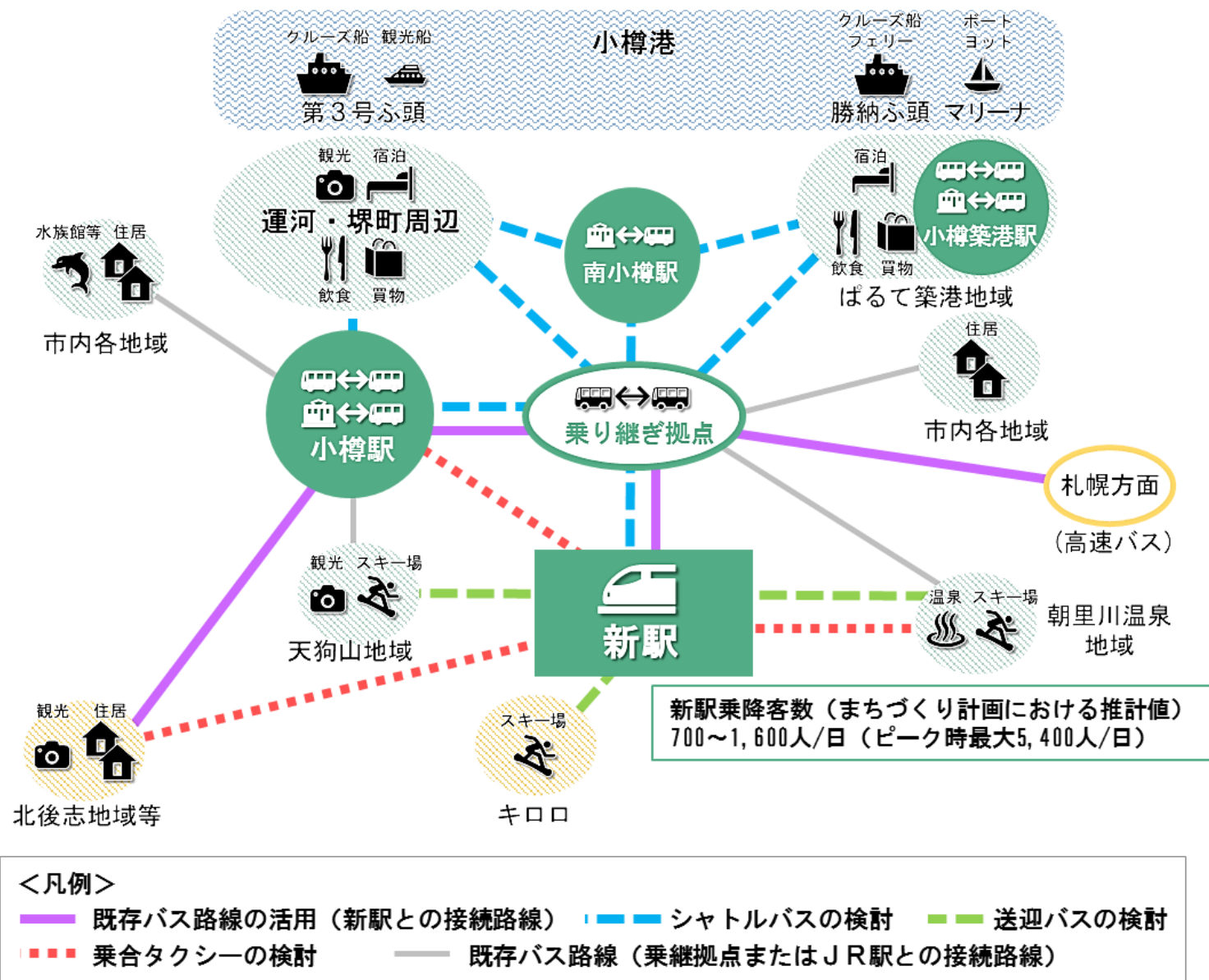
2 次交通対策①

基本方針	項目	取組の概要
① 利便性の高い 2次交通網の 構築	(1)バス交通の充実	ア. 新駅と市内中心部を結ぶ専用シャトルバスの運行
		イ. 現在の路線バスの活用
		ウ. 新駅と朝里川温泉やスキー場を結ぶバス交通の検討
		エ. 北後志地域等をつなぐ路線バスの活用
		オ. 外国人観光客にも対応したバスの運行
		カ. 持続可能な運行体制の構築
	(2)タクシーサービスの充実	ア. I o Tを活用した配車システムの導入
		イ. 外国人観光客にも対応したタクシーサービスの充実
		ウ. 乗合タクシーの検討
	(3)レンタカーサービスの充実	ア. レンタカー事業者の誘致
		イ. レンタカーによる周遊性の向上
	(4)レンタサイクルの充実	ア. 可能性調査を踏まえたレンタサイクル拠点の設置
		イ. 身軽になってサイクリングを楽しむことができるサービスの提供
② 実効性を高め る基盤づくり	(1) I C Tを活用した新たなモ ビリティサービスの提供	ア. 観光型 M a a S 等の新たなモビリティサービスの提供
		イ. 交通・観光関連事業者のキャッシュレス決済の導入促進
	(2)広域連携を強化する体制 の構築	ア. 広域連携を強化する組織づくり
	(3)新駅の交通結節点機能の 向上	ア. 利便性の高い駅機能の確保
		イ. 駅前広場等の整備
	(4)移動円滑化の取組の推進	ア. バスの利便性向上の環境整備
		イ. タクシーの利便性向上の環境整備
		ウ. ユニバーサルデザイン等の導入の推進

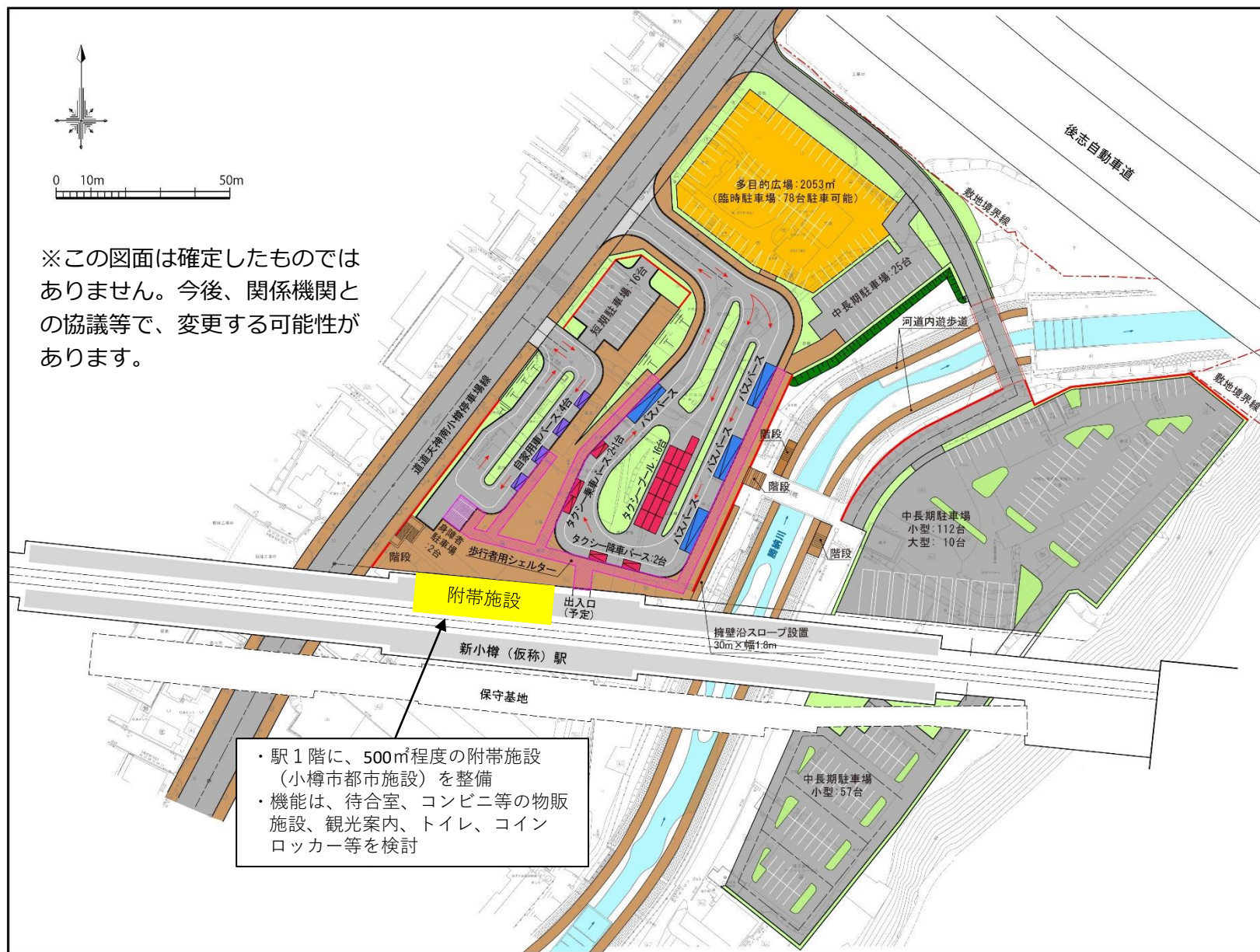
2 次交通対策②

基本方針	項目	取組の概要
③ 公共交通の利用促進と充実の好循環	(1) 情報発信の強化	ア. 積極的な情報発信・PR
		イ. 新駅に向かう案内・サインの設置
		ウ. 外国人対応の強化
	(2) 公共交通の利用を促進するサービスの提供と魅力づけ	ア. 身軽になって観光を楽しむことができるサービスの提供
		イ. 新駅と倶知安の周遊性を高めるサービスの検討
		ウ. クルーズ船等との連携
		エ. 地域連携等による魅力的なサービスの提供
		オ. 魅力ある車両の導入
	(3) 新駅周辺の魅力づくり	ア. 小樽のまちのイメージが伝わる駅舎や駅前デザインの検討
		イ. 自然の豊かさや四季の移り変わりを感ずる景観形成
		ウ. 新駅の立地特性を生かした魅力づくり
	(4) 移住・定住の促進	ア. 新駅周辺における住宅の整備促進
		イ. 新幹線通勤・通学者の利用増加に向けた取組
		ウ. 交通事業者の人材確保を兼ねた移住・定住促進策

2 次交通対策③



新駅からの人の動きと2次交通路線のイメージ

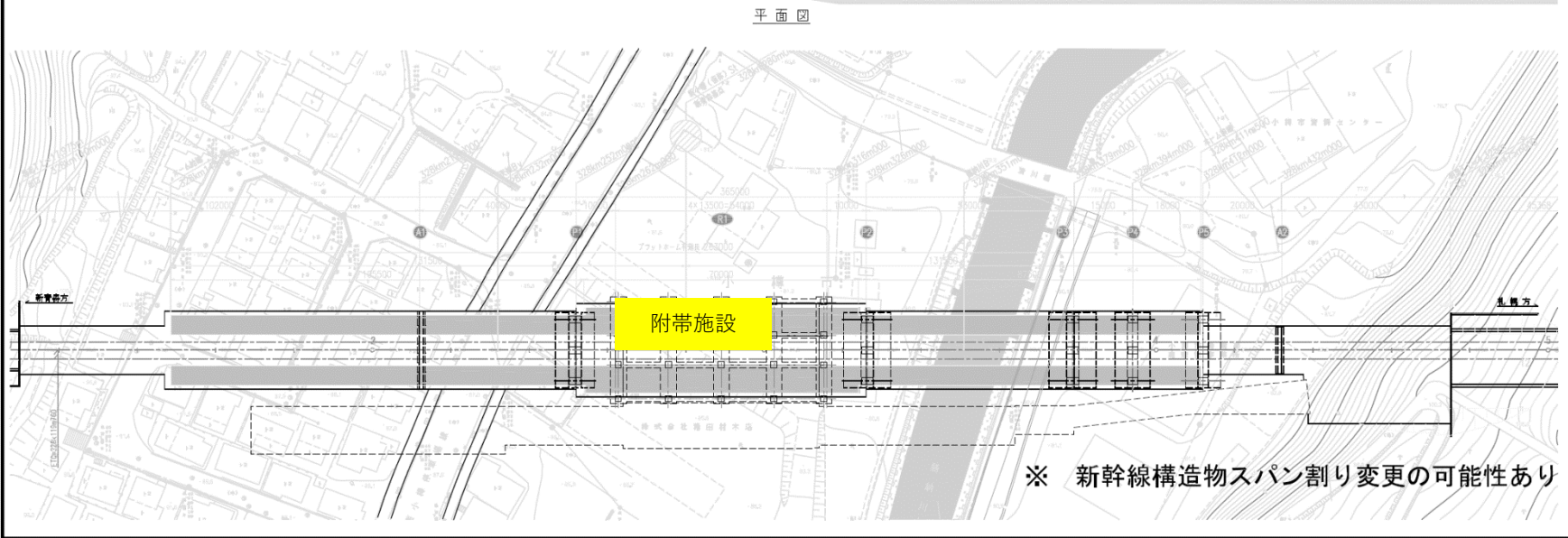
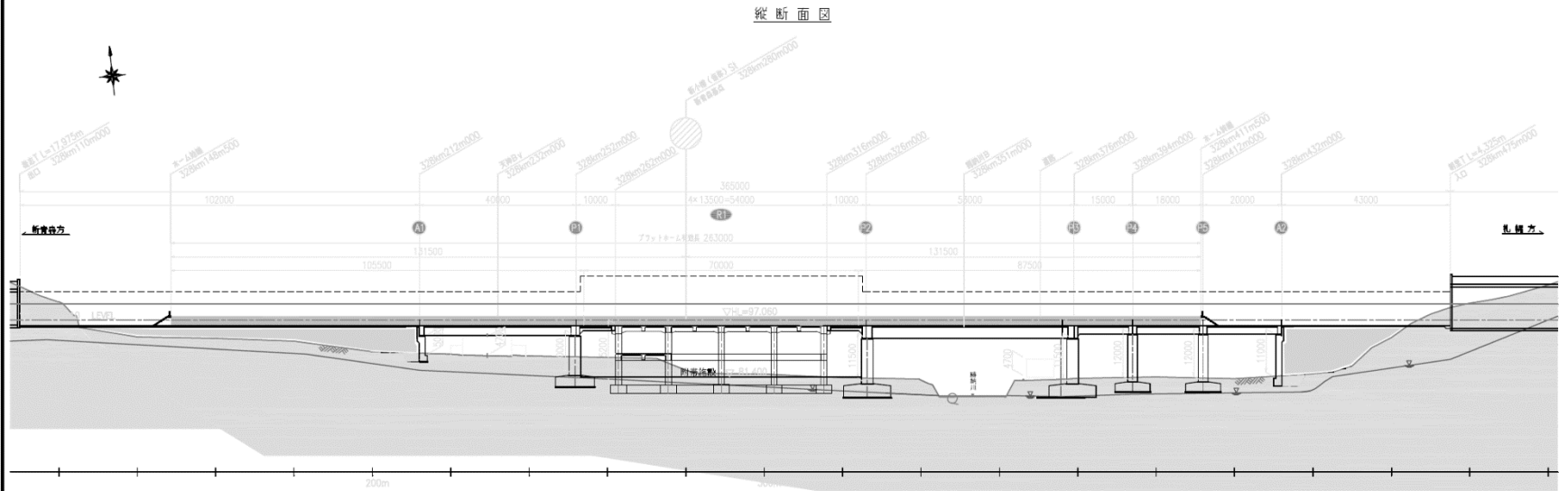


駅前広場等のレイアウト図

2 次交通対策⑤

新小樽（仮称）駅 施設配置図（案）

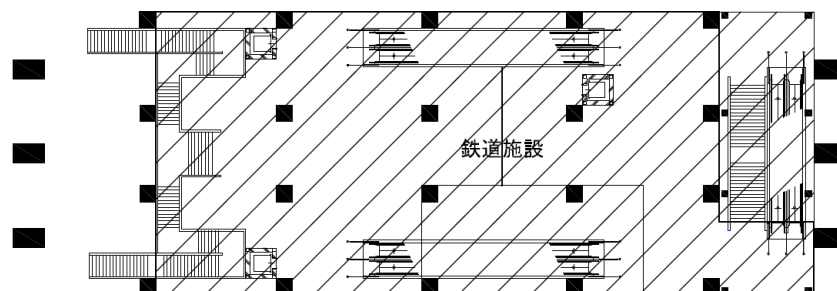
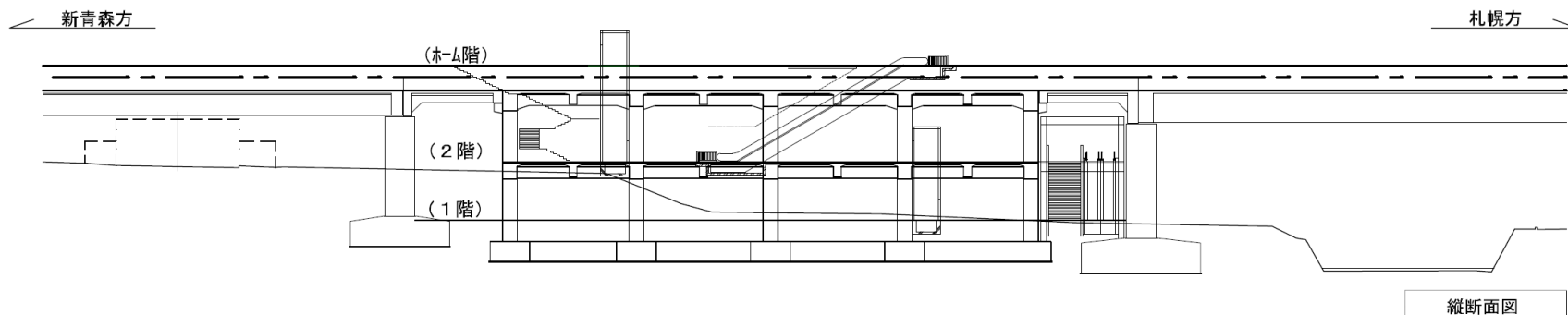
別紙



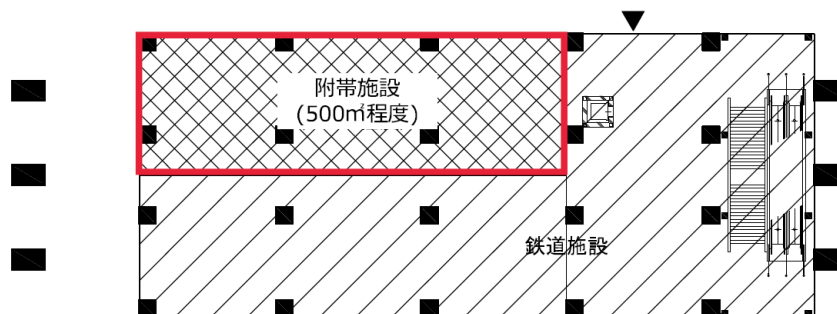
【参考】新小樽（仮称）駅 施設配置図

新小樽（仮称）駅施設配置図（案）

別紙

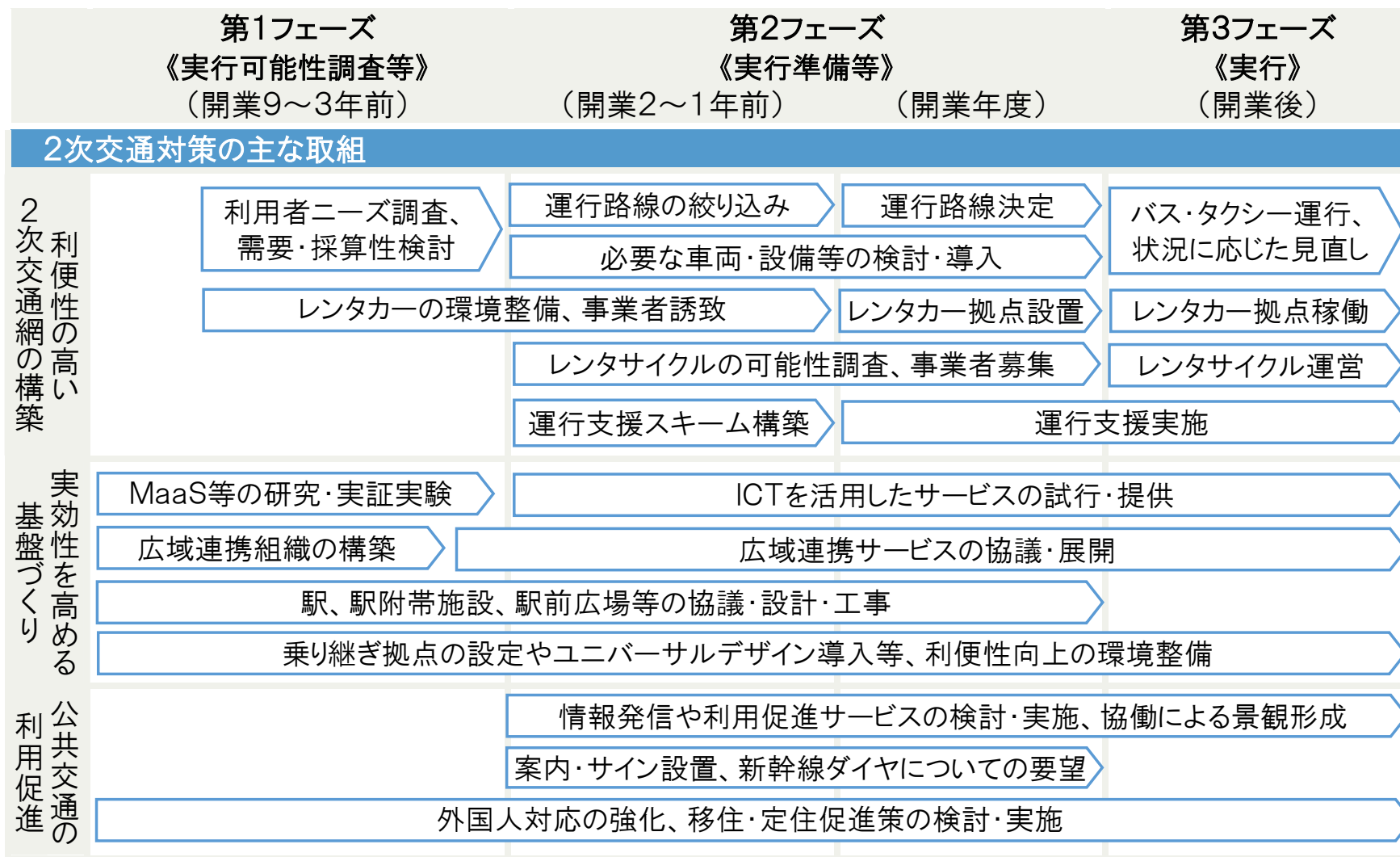


- 凡例
-  附帯施設
(小樽市都市施設)
 -  鉄道施設



【参考】新小樽（仮称）駅 施設配置図

2 次交通対策⑦

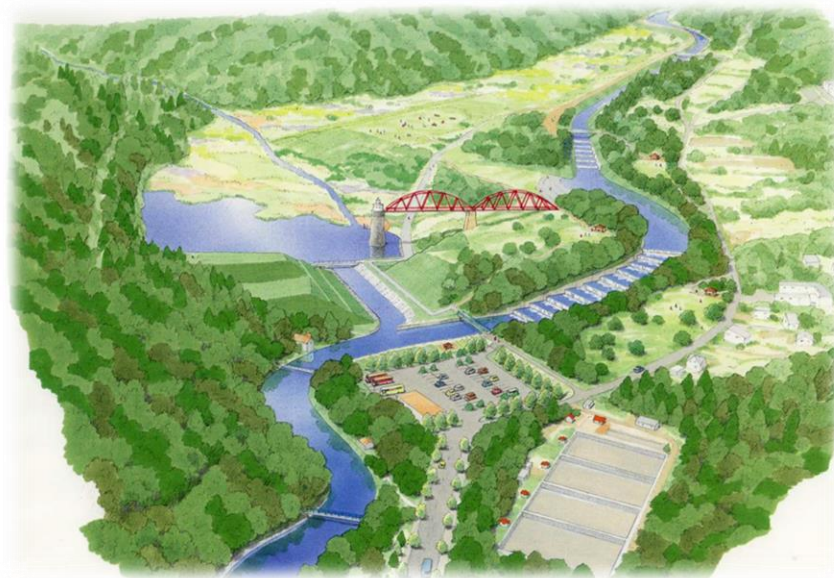


ソフト対策①

基本方針	項目	取組の概要
① 新幹線開業を契機とした個人観光客の誘致拡大	(1) 小樽の文化・食資源を活用した多彩な個人観光客向けプログラムの開発	ア. 東北圏や青函圏等と連携した旅行商品の開発 イ. 北後志地域と連携した個人観光客向けプログラムの開発 ウ. 倶知安・ニセコと連携した個人観光客向けプログラムの開発 エ. 小樽市内の歴史や文化資源、自然資源を広く活用した観光プログラムの開発 オ. 新幹線と他の広域交通を組み合わせた旅行商品の開発
	(2) 地域連携や電子媒体の活用等による効果的な情報発信	ア. 北海道新幹線停車駅のある自治体との連携体制の構築 イ. 地域連携による旅行商品等の幅広いPR ウ. SNSやHP等の電子媒体を活用した情報発信
② 新幹線開業を地域の活力に繋げる取組	(1) 滞在時間・宿泊客の拡大を目指した取組	ア. 宿泊客拡大に向けた取組 イ. 観光目的の多様化を踏まえた市内全域をフィールドとした観光資源の磨き上げ
	(2) 小樽の地域産業と観光産業の結びつき強化	ア. 小樽産食材の活用促進 イ. 小樽ならではの産業観光の推進 ウ. 地域特性を生かした新幹線車内で味わえる商品の開発 エ. 開業記念グッズの製作
	(3) 観光入込の季節間の平準化に向けた取組推進	ア. 観光入込の季節間の平準化に向けた各種取組
	(4) 中小事業者を中心とした外国人観光客への対応力強化	ア. 中小事業者を対象とした外国人観光客への対応力強化
	(5) 企業立地の促進	ア. 新駅周辺における民間機能の誘導
		イ. 新幹線開業を契機とした企業立地ニーズへの対応

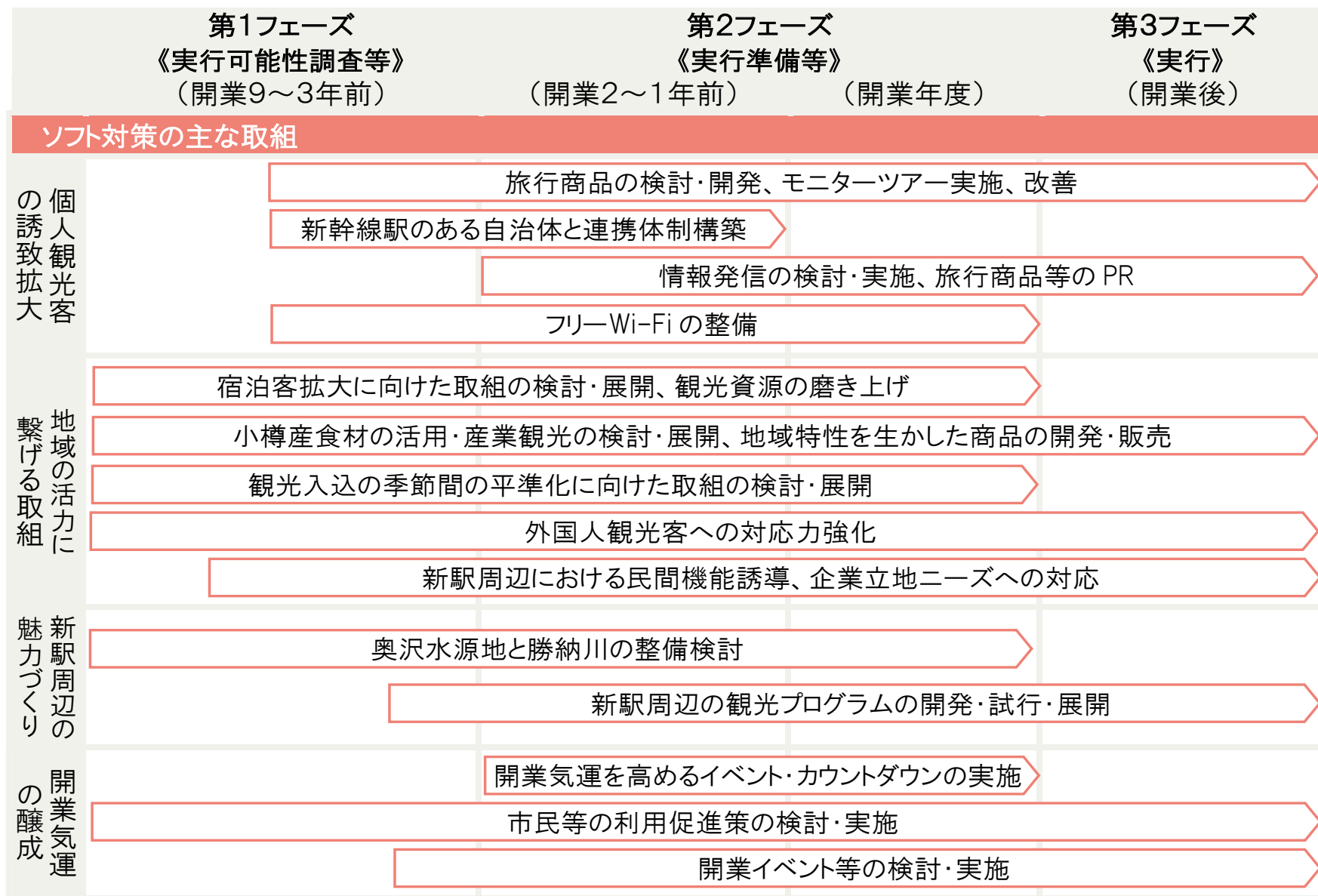
ソフト対策②

基本方針	項目	取組の概要
③ 新駅周辺の魅力づくり	(1) 新駅を起点とした新たな観光プログラムの創造	ア. 奥沢水源地と勝納川的环境整備
		イ. 奥沢水源地や周辺の自然環境を活用した観光ガイドプログラムの開発
		ウ. 奥沢周辺の観光資源との連携
④ 開業気運の醸成	(1) 新幹線開業に向けた市民の意識醸成と利用促進	ア. 市民の新幹線開業気運を高めるイベントの実施
		イ. 開業までのカウントダウン
		ウ. 市民等の新幹線利用の促進
	(2) 開業気運を高めるイベントの実施	ア. 北海道新幹線停車駅のある自治体や北後志地域が連携した開業イベントの実施
		イ. 開業後のイベント実施



奥沢水源地の保存・活用のイメージ図 （出典：奥沢水源地保存・活用基本構想）

ソフト対策③



2 駅舎デザインコンセプト

浪漫が薫る 温もりと心地よさを感じる駅 ～まちの記憶を未来へ～



北海道新幹線活用小樽まちづくり協議会
駅舎デザイン検討部会



要望書提出
(左：鉄道・運輸機構 竹津局長 右：迫 小樽市長)

作成経緯

- ・令和3年5月6日 鉄道・運輸機構から小樽市に作成依頼
- ・令和3年7月28日 小樽市からまちづくり協議会に検討依頼
- ・令和3年9月27日～令和4年3月30日 まちづくり協議会 駅舎デザイン検討部会で、コンセプト検討（3回）
- ・令和4年5月10日 まちづくり協議会 駅舎デザイン検討部会から小樽市に、提言書（コンセプト案）提出
- ・**令和4年5月18日 小樽市から鉄道・運輸機構に要望書提出**

浪漫が薫る 温もりと心地よさを感じる駅

～まちの記憶を未来へ～

新小樽(仮称)駅には、新たな小樽の玄関口として、また地域のシンボルとして、来訪者に小樽らしさを印象付け、市民が愛着を持てるデザインが望まれます。

明治から昭和初期にかけてつくられた運河や石造倉庫、銀行建築など、北日本随一の商都として栄えた面影を色濃く残す、大正ロマン・懐かしさが感じられるまちなみ。ガス灯・ランプ・ろうそくの灯りが醸し出す温もり。四季折々の変化に富んだ豊かな自然環境と調和する心地よさ。

このような小樽らしさを形成する歴史文化や自然環境を「まちの記憶」として駅舎に映し出し、後世へと受け継いでいきたい。

このコンセプトには、こうした小樽市民の願いが込められています。



「小樽らしさ」や「駅周辺の自然環境」のイメージ（抜粋）

浪漫が薫る 温もりと心地よさを感じる駅

～まちの記憶を未来へ～

附帯意見

【全体】

- ①小樽らしい要素を取り入れることにより、市民が駅舎に愛着を持ち、来訪者に再び訪れたいと思わせる印象的なデザインを検討していただきたい。
- ②「夏と冬」や「昼と夜」といった、季節や時間帯の違いによる見え方の違いにも配慮いただきたい。
- ③大きな壁面を持つ建築物であることから、周辺への圧迫感を軽減するデザインを検討していただきたい。（分節化やガラスによる抜け感などにより、軽やかな印象を与える工夫）
- ④正面以外のデザイン（保守基地（奥沢水源地側）及び信号通信機器室の外観、小樽有数のビューポイントである天狗山山頂から眺めた時の見え方等）にも配慮いただきたい。

【歴史・文化】

- ⑤北海道の玄関口として発展し、日本の近代化に貢献した小樽の歴史性（北海道最初の鉄道開業など）をデザインに取り入れることを検討していただきたい。
- ⑥雪あかりの路に見るろうそくの灯りや小樽運河周辺のガス灯、小樽駅にあるランプのように駅舎に温かみや柔らかな印象を与えるような開口部や照明を検討していただきたい。

【新旧の融合】

- ⑦新幹線の駅舎という未来感のあるものに、小樽の歴史や特徴をモチーフとして加え、新旧の要素が融合する中で過去と未来をつなぐ象徴となるデザインを検討していただきたい。

【自然環境との調和】

- ⑧周辺の自然環境と調和するように、石、レンガ、タイル、木材、鉄などの素材感がある外装材を検討していただきたい。

【駅舎内部】

- ⑨内部には、利活用された歴史的建造物に見られる落ち着き、レト口感、居心地の良さなど、小樽らしさや市民とのつながりが感じられる空間づくりを検討していただきたい。
- ⑩内部には、後志産の木材の使用や小樽に関する作品を展示するスペースの設置など、小樽が感じられる仕掛けを検討していただきたい。
- ⑪外国人観光客や高齢者など、すべての人に使いやすいユニバーサルデザインを取り入れ、外国語表記やゆとりのある通路幅・扉の高さ・手すりの配置等に配慮していただきたい。